

# 学生と教員の見方



【アピールポイント】  
不動産分野を学び宅  
建取得に挑戦中。来春  
から地元銀行で金融と  
不動産を結ぶ人材を目  
指す。

【学生の見方&考え方】  
(4年 山田富久)

今、日本の不動産は大きな転換期を迎えていると思う。少子高齢化や人口減少が進むなかで、これまでのように「たくさん建てるこ

と」だけが正解ではなくなってきたと考えられる。これからは、そこに住む人たちの暮らしやすさや安心感を大切にしたまちづくりが求められていくと思う。

私が特に注目しているのが、スマートシティという新しい形の都市である。その中でも、トヨタ自動車が静岡県裾野市で進めている「ウーブン・シティ」はとも印象的である。自動運

## 日本の不動産の未来について②

転やAI、再生可能エネルギーなどの先端技術を生かして、人々の暮らしをより便利で快適にしようという試みが行われている。

こうした技術の進化によって、これまで不便だったことが少しずつ解消されていく未来に、私はとてもワクワクしている。

一方で、どれだけ便利になっても、「人の気持ち」や「地域のあたたかさ」が置き去りになってしまっただけでは意味がないと感じる。高齢者や子育て世代、障が

いのある人など、さまざまな立場の人が安心して暮らせるように、技術と人のつながりのバランスが大切だ

これからの不動産について、自分たちの未来に直接関するテーマであり、まちづくりやスマートシティについて、これからもしっかりと学び続けたいと思う。

また、地域の歴史や文化を大切にする。これからの不動産について、自分たちの未来に直接関するテーマであり、まちづくりやスマートシティについて、これからもしっかりと学び続けたいと思う。

日本では、富山県富山市がコンパクトシティの良事例であり、スマートシティ政策の融合が進んでいる。富山市スマートシティ推進ビジョン、2022年11

## 利便性高いスマートシティ

### 「人のあたたかさ」忘れずに

をどう守っていくかという視点も忘れてはいけないと感じる。

【教員の展開】  
(金東煥准教授)

「一方、どれだけ便利になっても、「人の気持ち」や「地域のあたたかさ」が置き去りになってしまっただけでは意味がないと感じる。高齢者や子育て世代、障が

提供する都市インフラを目

効率化が進む。加えて、スマートシティはICTなど新技術とデータに基づく生活サービスの効率化を提供し、人口減少が招く都市の衰退を止めて、持続可能な都市を維持させると考えられる。

少子高齢化のな

少子高齢化のな

必要とする。そのため、コンパクトシティは物理的な都市範囲を人口減少に合わせることで、集中させる考え方、不動産業界がこれから考慮すべきテーマであると考えられる。